

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 根内 通信

—— 2022 年 1 月号 No.304

1 月 15 日（土）発行 ——



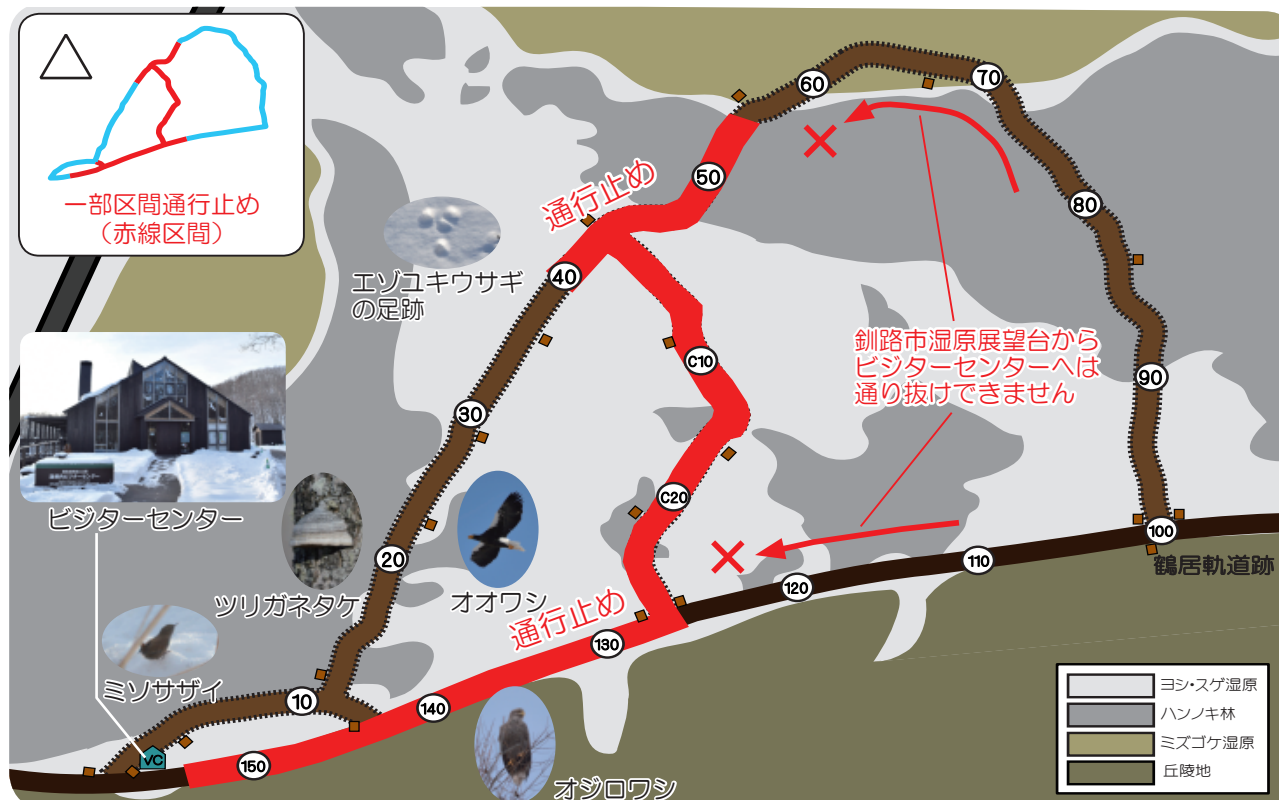
朝日が照らす静寂の湿原

2022 年が始まりました。

年始の釧路湿原には冷たい空気が張りつめ、早朝のハンノキ林は幻想的に輝いていました。感染症の不安が覆う中、この朝日のように希望の光が射してくれることを願っています。

1 月中旬になると、この時期にしては珍しいくらいのドカ雪に見舞われ、様子は一変。凹凸の広がる湿原は、不思議な世界に迷い込んだ気分になさしてくれます。

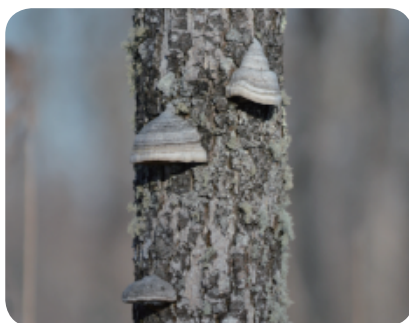
☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（12/15～1/14） ☆☆☆



【エソユキウサギの足跡】

ウサギ科 蝦夷雪兔

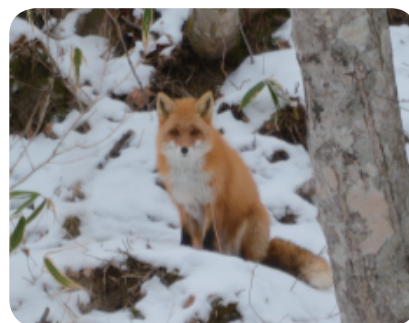
雪原に人の顔のような足跡が続きます。姿は滅多に見かけませんが、足跡や食痕は頻繁に見られます。



【ツリガネタケ】

タコウキン科 釣鐘茸

年々大きくなる釣鐘のような形をしたきのこの仲間。ハンノキなどの樹木に寄生します。



【キタキツネ】

イヌ科 北狐

雪の斜面からこちらを窺っていました。フワフワの冬毛をまといつつ、表情はどこか物憂げでした。



【オジロワシ】 留鳥・冬鳥

タカ科 尾白鷲

カラマツの枝から眼光鋭くこちらを見据えていました。温根内では冬期に見る機会が多くなります。



【ミソサザイ】 留鳥

ミソサザイ科 鶺鴒

いつもは秋と春に見かけますが、湿原でたびたび声が聞こえてきます。国内最小クラスの野鳥。

もうすぐできるかも！



2020年1月31日撮影

【歩くスキー・スノーシュー】

そろそろ、無料レンタル始めます！

○温根内木道周辺で確認された鳥 一覧表（12/15～1/14）

冬本番を迎えた釧路湿原では野鳥の確認種数はやや少なくなっていますが、この時期の醍醐味であるオオワシ・オジロワシの大型猛禽類 2 種は比較的観察できています。注意深く上空やカラマツの上などを見てみましょう。また、ハンノキ林などでは、カラ類などの留鳥も引き続きよく観察できています。

鳥（和名は日本鳥類目録第 7 版の順）	5	ノスリ	10	ハシボソガラス	15	エナガ
1 タンチョウ	6	コゲラ	11	ハシブトガラス	16	ゴジュウカラ
2 トビ	7	オオアカゲラ	12	ハシブトガラ	17	キバシリ
3 オジロワシ	8	アカゲラ	13	シジュウカラ	18	ミソサザイ
4 オオワシ	9	クマゲラ	14	ヒヨドリ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ トピック タンチョウにどれくらい会える？ ☆☆☆☆

「ここでタンチョウは見られますか？」

ビジターセンター勤務中に来館者から尋ねられることのうち、多さでいうと 3 本の指に入る質問です。釧路湿原といえばタンチョウ、というイメージが皆さんの頭にあると思います。そして当然、そのイメージは間違っていないのですが、では、**ここ温根内木道を歩いている時に、実際にタンチョウに出会える確率はどれくらいなのでしょう**か？

そんな疑問にお答えするひとつの試みとして、これまで職員が木道を巡



木道沿いに姿を見せたタンチョウ（4月）

視する際に付いている野帳の確認記録から迫ってみたいと思います。私たちビジターセンター職員は、定期的に木道とその周辺を巡視しています。木道に異常がないかや、ゴミが落ちていないかをチェックしているほか、植物の開花や野鳥の確認種といった、自然情報を手帳に記録し続けています（本誌第 278・280・284 号参照）。そこで今回、これらの記録を数値データとして集計し解析することで、い

わゆる「温根内木道タン

チョウ遭遇率」を割り出

してみたいと思います。

まず前段として、野鳥の

確認方法はいくつかあり

ます。その対象を目で確

認（目視）するだけでは

なく、鳴き声を聞き取る

ことも確認したことに入

ります。さらには、木道

上や雪の上に新しい足跡

や糞が見つければ、それ

も確認したことにして

ています。職員が巡視した際、これらタンチョウの何らかの姿、声、新しい痕跡を確認できた回数を

巡視回数で割ったものをタンチョウの「確認率」とします。またそのうち、姿を目視した回数だけを調査回数で割ったものをタンチョウの「遭遇率」としました。

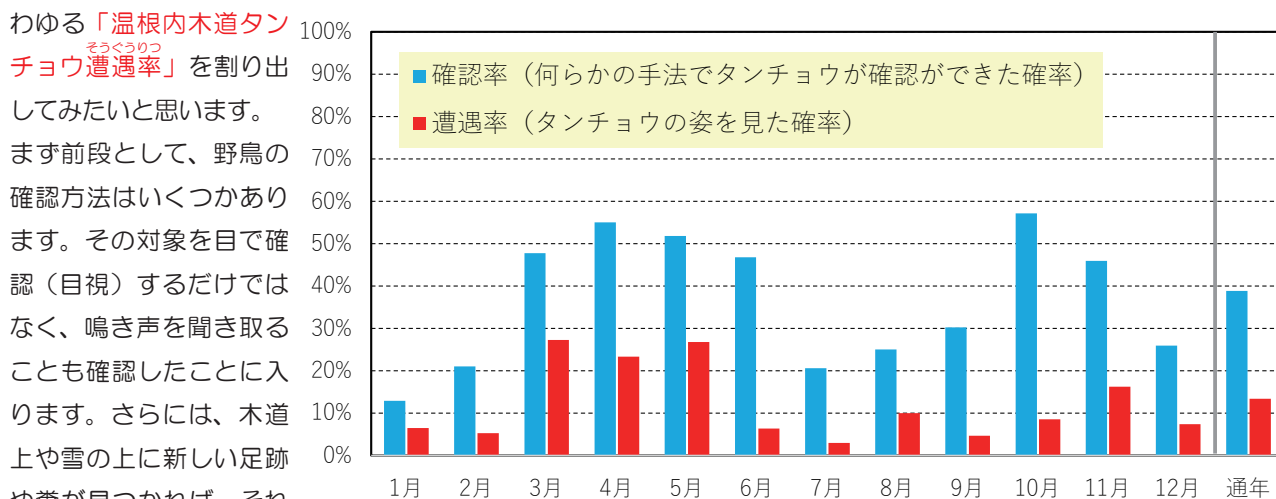
さて、結果はどうなったのでしょうか？以下に、月別の棒

グラフで示してみました。

まずグラフの右端、通年で見ると、確認率が 40% 程度、遭遇率が 10% 程度という結果になりました。ですから、10 回歩いたら、4 回くらいは何らかの形でタンチョウが確認でき、1 回は姿を見られる、という計算になります。さて、この数字を皆さんはどう感じますか？「意外と多いなあ！」でしょうか。「なんだ、そんなに見られないんだ…ガク」でしょうか。ここで留意いただきたいのは、巡視しているのがタンチョウの基礎知識を持っている私たち職員だということです。ですので、（自慢話のようで



雪上に残る新しいタンチョウの足跡（これも確認記録のひとつ）



恐縮ですが) **実際の確認・遭遇できる確率は、この数字よりも低い**と思った方がよいかもしれません。

その上で次に、月別の傾向を見てみましょう。月によってかなり違いますね。様々な要因でこのような分布になっていますが、主にタンチョウの行動パターンが関係していると考えられます。まず、早春の3月～5月にかけて確認・遭遇率ともに高くなるのがわかります。なぜでしょうか。タンチョウにとってこの時期は、まさに繁殖時期に当たります。あくまで推測ですが、繁殖行動(交



大きくなった幼鳥を連れだしたタンチョウ(11月)

尾や営巣)に伴って、鳴き合い行動や移動が増え、確認率が比較的高くなっていると思われます。一方、7月になると数値は非常に低くなり、遭遇率は最低の2.9%。職員ですらほとんど姿を見ることはできなくなります。この時期の前後からはヒナがかえって子育てをする時期になります。そのため、親鳥の警戒心が非常に強くなり、人前には滅多に姿を現さなくなるのです。また、この時期は植物の背丈も高くなり、姿がそもそも確認しづらいという事情もあると思います。そして11月になると、再び確率が上昇します。これも推測になりますが、ヒナが大きくなって行動範囲が広がることなどが関係しているのかもしれません。

こういったデータから、生き物の生態を推測できたり、垣間見たりできるのはとても面白いと思いませんか?例えば**普段の何気ない散歩の際に、簡単なメモを取っただけでも同じような集計ができます**。皆さんもぜひこれからは、メモ帳を片手に出掛けてみませんか!(温根内ビジターセンター指導員 藤原伸也)

☆☆☆☆ イベントのご案内(2月) 事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆
新型コロナウイルスの感染状況により行事自体が中止になる可能性があります。事前に各施設へご確認ください。

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪アイヌの自然観 ～カムイ編～

〔日時〕2月6日(日) 10:00～12:00

〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

湿原の動物の痕跡を観察しながらアイヌ民族と「カムイ」について学びます。



↑ 昨年の様子 →

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと) ⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕2月5日(土) 10:00～12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔集合場所〕シラルトロ自然情報館駐車場

～引き続き、ご協力を～

本年もよろしくお願いいたします。
温根内では昨年から引き続き、木道の改修工事を行っております。工事の範囲にはくれぐれも立入らないようお願いいたします。
ご不便をおかけしておりますが、もう暫くのご辛抱をお願いいたします。

.....
月刊 温根内通信 No. 304

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 9:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料
.....